

令和元年度

第1回総合教育会議  
会議録

とき 令和元年9月10日

品川区

令和元年度第1回品川区総合教育会議

日時 令和元年9月10日（火） 開会：午後4時

場所 品川区役所 議会棟6階 第一委員会室

出席者	区長	濱野 健
	教育委員会教育長	中島 豊
	同 職務代理者	菅谷 正美
	同 委員	冨尾 則子
	同 委員	海沼 マリ子
	同 委員	塚田 成四郎

出席理事者	総務部長	榎本 圭介
	総務課長	立川 正
	生活安全担当課長	黛 和範
	教育委員会事務局教育次長	本城 善之
	同 庶務課長	有馬 勝
	同 学校施設担当課長	若生 純一
	同 学務課長	篠田 英夫
	同 指導課長	工藤 和志
	同 教育総合支援センター長	大関 浩仁
	同 品川図書館長	横山 莉美子

傍聴人数 3名

次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長、教育長
3. 議 題
  - (1) 教育委員会からの報告・協議事項について
    - ①子どもの安全確保について
  - (2) その他
4. 閉 会

○総務部長

それでは、定刻となりましたので、令和元年度第1回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は傍聴の方が今現在3名おられますので、お知らせいたします。

なお、本日の会議におきましては、記録用にカメラ撮影をさせていただきますが、傍聴の方のお顔が写らないようにご配慮をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、開会に当たりまして、濱野区長よりご挨拶をいただきます。濱野区長、よろしく願いします。

○濱野区長

皆様、こんにちは。お忙しいところ、今年度第1回目となる総合教育会議にご参集を賜りまして、大変にありがとうございます。

平成から令和ということで、元号が変わりました。新たな時代がスタートしたわけですがけれども、改元に対する対応につきましても各部署がしっかりと準備をし、区民サービスに支障なく実施してきたところでございます。

さて、総合教育会議は、教育について考えていくという組織体でありますけれども、教育というのは、私から言うまでもなく、大部分が子どもに対して学習をさせ、学んでいくという営みだろうと思います。その営みの目指すところは、次の時代の担い手を支えるということが1つ。それから、その子その子の一人一人の人生が充実したものになるためのさまざまな備えをすること、これが私は教育だろうというふうに理解をしております。そういう意味で、それぞれの場面で、教育に携わる方々がその意義をしっかりと意識しながら教育活動にいそしんでいただければ幸いだというふうに思います。

行政は、もともと教育の内容について云々かんぬんすることはご法度でございます。したがって、行政としてできることは、教育の環境をしっかりと整えること、それから子どもたちの健康をしっかりと支えること。もちろん、できることとできないことがありますけれども、健康で学校で元気よく過ごせるように環境を整えていくことだというふうに私は思っております。そういう意味で、この会議でいろいろとお話し合いをいただくわけでありましてけれども、行政として取り組むべきことについてはしっかりと取り組んでいきたい、そのような決意でありますので、どうぞ皆様の活発なご審議をお願いしたく思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○総務部長

ありがとうございました。

では次に、教育委員会よりご挨拶をいただきます。教育委員会を代表いたしまして、中島教育長、よろしく願いいたします。

○中島教育長

失礼いたします。ただいま区長から話がありましたように、本区教育施策の実施に関しましては、区長の教育に対する熱い思いと大きな支援をいただき、さまざまな教育改革を始めとした実践に取り組んでいるという状況です。

今日のテーマは、子供の安全というテーマですけれども、先ほどの話もあつたように、令和の時代になって、目を覆うような子供の痛ましい事故、事件が起きてきております。その全てを教育で防ぐことはできないのかもしれませんが、それでも現在、教育委員会として、また区長部局でもさまざまな取り組みを通して、子供の安全のために全力を尽くしております。今日はそれらをテーマとして、区長と委員の私どもとでいろいろと意見交流ができればと思います。

実は、これは今日のテーマには直接かかわらないのかもしれませんが、昨日も台風対応がございまして、本区では全校休校という形で子供の安全を確保するという体制をとりました。実際に台風が過ぎた後でも、通学路には大変危険なものが散乱していて、そういった確認をしていくと、はい、警報がなくなりましたのでどうぞ登校してくださいというわけにはいかない場面も出てまいります。教職員の参集もままならないというようなこともございました。安全第一ということを考えると、慎重な配慮が必要になるだろうと思われまふ。今日の会議の中で、またそういったところも共通認識していければと思います。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○総務部長

ありがとうございます。

それでは、議事に入りたいと思います。着座にて進めさせていただきます。

議題の(1)教育委員会からの報告・協議事項についてより、子どもの安全についての説明を願ひます。はじめに教育委員会事務局から説明を伺ひまして、その後、引き続き、生活安全担当課長から「まもるっち」についての説明に入ります。

では、よろしくお願ひいたします。

○有馬庶務課長

庶務課長の有馬でございます。

私から、子供の安全確保についてということで、現在、教育委員会事務局で取り組んでいる内容について、特に交通安全や防犯という観点に絞ってご説明をさせていただきます。あわせて資料をごらんいただきたいと思います。

まず、1番の通学安全確認でございます。児童の登下校の交通安全の確保をするため、スクールゾーンを設定したり、通学路の交差点や横断歩道などに交通安全指導員を配置したりしております。一校1日四、五時間活動しております。その活動の中には、学校周辺の巡回活動を行い、危険箇所の把握にも努めている、こんな活動も行っております。また、昨年度は、通学路におけるブロック塀の危険箇所の把握も実施したところではあります。

そして、最近の子供を巻き込む事故や事件を受けまして、区の生活安全パトロール隊にも頻繁に学校に寄っていただきまして、積極的に子供たちに声かけをしていただいているところでございます。

さらには、小学校・義務教育学校において、交通事故のヒヤリハット地図を活用したり、自転車に乗る際はヘルメットをかぶるよう指導しているところでございます。

まちづくり事業部とも、通学路の安全・安心プログラムというようなことで、危険箇所の総点検も行っております。

2番目の、まもるっち・こども110ばんの家でございます。「まもるっち」は、区が独自に開発した見守りシステムでございます。児童の安全確保をするための、かなめのシステムになってございます。これも、後ほど生活安全担当課長より、状況については説明していただければと思っております。

3番、右のページに行きまして、モニター付きインターホンおよび防犯カメラでございます。児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、全区立学校でモニターつきインターホンで来訪者の確認を行っています。また、不審者の侵入、窃盗などの犯罪を抑止するため、防犯カメラを設置しています。あわせて通学路においても、167台のカメラを設置しているところでございます。また、本年度、中学校の学区域においても45台の防犯カメラを設置していくということを予定しております。

次に83運動についてです。83運動は、小学校の登下校時間である8時と3時に、なるべく外の用事を行いながら子供を見守ろうという目的で、平成17年度に品川区立小学校PTA連合会会長が考案したことから始まっております。登下校時刻に限らず、買い物や花の水やりなどを行う際に子供の様子を気にかけていただきたいというような活動で、いつでも、どこでも、誰でもできるというのが1つの特色となっております。今後も、この活動を支援していきたいと考えております。

最後に、スクールサポーターについてです。スクールサポーターとは、警察署に所属する職員で、定期的に学校を巡回しています。セーフティ教室や生活指導主任会へ参加するなど、子供の安全を見守るための連携を図っていただいているところでございます。

#### ○生活安全担当課長

引き続きまして、生活安全担当課長の黛でございます。私からは、「まもるっち」の運用状況についてご報告をさせていただきます。

本年度に入りましての「まもるっち」の発報件数につきましては、お手元の資料に記載のとおりでございますが、昨年1年間の「まもるっち」の発報件数につきましては、6万6,732件ございました。このうち、児童の生命・身体に危害が及ぶ恐れがあると判断して緊急対応いたしました事案は7件ございましたが、いずれも児童には危害が及ばずに済みました。主な内容は、不審者による声かけ事案でございました。

発報の約8割は誤報でございます。誤報の減少を図るために、各校のセーフティ教室などに参加をいたしまして、「まもるっち」の正しい使い方について具体的に指導をさせていただいているところでございます。

なお、生活安全サポート隊の運用でございますが、今年度からは、緊急事態に至らずとも児童が怖い思いをしたと思われる場合には、積極的に出動いたしまして、できるだけ当該児童や保護者に接触をし、安心してもらうようにさせていただいているところでございます。

また、最近では、特に注意してございますのが、虐待が疑われる事案でございます。一例を挙げますと、「まもるっち」を介して児童が激しく泣いており、その後ろで親の尋常でないどなり声がするといった事案を取り扱うことがございます。こうした場合につきましても、学校に情報提供するなど連携をして、しっかりと対応しているところでございます。

最後に、品川区の先生方につきましては、こうした事案がありますと必ず現場に駆けつけて、一生懸命対応していただいております。担当として大変感謝をしているところでございます。引き続き、学校、行政、警察、そして地域の皆様が連携して児童の安全を守る体制を維持し、適切な運用に努めてまいりたいと思います。

私からは以上でございます。

#### ○総務部長

ただいま、資料のご説明、子どもの安全についての説明がございました。これについてご意見等、お伺いできればと思いますけれども、項目がいくつかありましたので、まずは資料の左側、1番の通学安全確認と、2番のまもるっち・こども110ばんの家についてのご意見等を伺っていきたく思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○濱野区長

どうぞ、ご意見等、あるいはご質問等、何でも結構であります。よろしく申し上げます。

#### ○塚田委員

直接通学ということではないと思うのですが、児童・生徒で、自転車で通学というのはあんまりいないと思うんですけども、放課後等、自転車でまちを走行する際、最近、特に自転車のマナーが非常に乱れているということがあります。歩道を平気で走行していたり、道路交通法では3m以下の歩道は走行してはいけないとなっておりますが、そんなの全くお構いなしに走行している。特に安全面でいうと、横断歩道を走行して渡るといのは非常に危険が伴うんですね。というのは、大型トラックが左折してきたとき、自転車はスピードが速いですから、見えないうちに巻き込んでしまうという事件が時々あります。お母さんが子供を乗せた自転車が巻き込まれると。マスコミ報道が、常にトラッ

クが悪いという報道で、お母さん、ちょっとまずいんじゃないのという報道はないんですね。だからお母さんたちも、それは危険だということをあんまり認識しない。事故が起こって初めて、走行しちゃいけないんですか、いけなかったんですかというぐらいのものなので、その辺も交通安全指導でやっていただいたほうがよろしいのではないかなと、希望を持っていますというところです。

#### ○濱野区長

今、お話がありましたけど、親は子どもから言われるのが一番弱いというか、四の五の言えない立場だろうと思いますので、お子様からいろいろと言ってもらうには、学校で言ってもらわないと何にもならないので、ぜひ学校教育の中でもそういったものを充実していただければと思います。

#### ○中島教育長

自転車安全教室は、全ての小学校・義務教育学校の前期課程で実施はしているんですけども、一時停止をするといったルールが守られていないというのが大人も子供も現状ではないかと考えます。ただ、だからといって手をこまねいてはいたし方ありませんので、繰り返しこれはやっていくしかしようがないだろうと思います。

自転車というと、今、品川区の子供たちはヘルメットを持っています。中学生でも7、8年生であれば一応持つてはいるんですけども、なかなか恥ずかしさもあるのでかぶらないという実態もあります。

この間、ある中学校で、自転車に乗っていて事故にあい、転倒したのですが、頭は手でかばったので大事には至らなかったんですが、その子はヘルメットをつけていなかったということで、危険は紙一重のところにあるなという感じが改めていたしました。

今後とも、繰り返しヘルメット着用、そして、1～6年生までは「まもるっち」の活用というのを、通学以外の部分にも徹底していくように指導していきたいと思います。

#### ○濱野区長

ほかに、いかがですか。

はい。

#### ○富尾委員

私も、保護者のほうのことなんですけど、PTAの活動で、地域のパトロールなんかを保護者の中でやったりしていますけれども、その中で危険箇所のチェックをしたりというような、各校でさまざまな取り組みをしていると思いますので、先ほどおっしゃられていたような、交通安全教室を始めとした警察との連携をした中での取り組みというのも、今後も引き続きお願いしたいというふうに思っています。

○濱野区長

今の件について、何かありますか。承って、そのようにやりますと。

○中島教育長

危険箇所のチェックにつきましては、今年度から新たな取り組みがスタートしているんですね。

○濱野区長

どなたか。その内容について。

○教育総合支援センター長

教育総合支援センター長の大関でございます。

道路管理課とも一緒に連携をする形になりまして、危険箇所は、防犯だけでなく交通安全と両方の観点からローラーで全校を、PTAや地域の方などの協力も得ながらチェックをしていくという取り組みを本年度はまずは4校でスタートし、3年かけて全校でやっていくということを、従来のヒヤリハットの地図の見直しとは別に、さらに今年度よりスタートします。

○濱野区長

どうもありがとうございました。

ほかに……。教育長。

○中島教育長

今のは警察と一緒に取り組むということでもいいですかね。

はい。

○濱野区長

ほかに、いかがでしょうか。ご意見、ご質問がありましたら、お願いしたい。よろしいですか。

○総務部長

それでは、今度は資料の右側のほう、3番、4番、5番のモニター付きインターホンおよび防犯カメラのところから、83運動、スクールサポーターについてご意見、ご質問等ありましたら、よろしくお願ひいたします。

○濱野区長

どうぞ、お願いします。

○海沼委員

83運動なんですけれども、ここにも出ておりますけど、ベストが、うちの



町会でも83運動に参加させていただいている方がいらっしゃいますけれども、長年着ているので古くなっているんです。で、古いのもちょっと……、新しくしたいねという話はしまして、先日、警察のほうに伺ったらしいんです。だけど、警察ではないということ言われたそうなので、できれば区のほうで統一したものがあれば、皆さん、83運動にかかわってくださっているんだなということがわかりますので、ぜひ統一して、新しいものをつくっていただけたらなと思っております。

○濱野区長

くたくたになったこれを着ているのも、恥ずかしくてまちへ出られないなんということになっては……。

○海沼委員

まじめにやっている証拠ですからいいんですけれども。

○濱野区長

そういう意味では、ある程度定期的にメンテナンスなり買いかえなりできるようにしていきたいというふうに思います。

ほかにいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○菅谷教育長職務代理者

「まもるっち」や「こども100ばん」、このシステムの中で、私は、ちょうどこれができた当時から3つの東京都内の区の実験がありますけど、ここまで徹底してやっているのは品川区だけです。品川区よりも人数が多くて、学校の数も多いところであっても、なかなか全部でそれができていない。品川区よりも小さいところも財政的にもいっぱいあると思うんですけど、なかなかこれができない。いわゆる、やる気というんですかね。区が開発したもので、皆さんが使ってくれる。かばんを置いただけで発報しちゃうことが非常にあったんですね。だけれども、子供を守るためだということで、その当時から品川の子供が性的ないたずらとか、つきまといとか、そういうものがガクッと減ったと思うんですよ。品川の子供は「まもるっち」を持っている、これはやっぱり大きいなど。ただ持っているだけではなくて、持っているということを皆さんが知っている、抑止力になっているのではないかと、非常に大きいのではないかと。抑止力は、ただ持つだけではなくて、そういうことをうまく宣伝していく、そのことに関係している。

ちょうどそのころ、携帯電話の会社が私のところに来まして、どうしたらいいのと言われてたんです。やっぱりみんなが持たなきゃだめだと。ある程度、子供も持って、みんなで守るという体制をつくると、こういうのが効果が出てくると。そんな話だったんです。

対応している方は大変だと思うんです。ほんとうにご苦労さまですが、ぜひとも継続していただきたいと思っています。

○濱野区長

ありがとうございます。

何年か前ですけど、警察大学校に招かれまして、子どもの安全について、品川区の取り組みということでお話しさせていただいた中に、「まもるっち」の話をしてくれというふうに言われて出かけていったんですけども、かなり反響がありました。キュッと引っ張るだけですがすごい音がしますよね。あの音を聞いただけで多分、不審者は逃げていくのだろうと思いますけど、これをほんとうに活用して、子どもの安全をしっかりと守っていくということも行政の役割でございまして、これは続けていきたいというふうに思います。

ほかに、何かご質問……。

○海沼委員

今の「まもるっち」の話なんですけれども、たまたま地域懇談会で、中学生のところで出席したときに、保護者の方から、小学生のときには「まもるっち」を持っていてよかったんですけども、中学生になって、遠距離から通ってくる方がいらっしゃいますよね。そうしますと、スマホも持てないので家に連絡ができない。「まもるっち」のときには携帯電話の機能がついていたので、できればあれを持たせたいというお母様が。そういうことを小耳に挟んだ方もいらっしゃいます。全員ではないですけど、そんなふうに言っていた方もいらっしゃいましたので、希望があればということもあるのかなとは思っています。

○濱野区長

そのお話は何回か耳には入ってきているんですけども、費用対効果とか、あるいは使われ方ですよ。結構、それぐらいの年代になると、友達との電話のやりとりなんか増えてきますから、そういうものに使われちゃったら困るので、ちょっと躊躇しているところです。

○中島教育長

一応、「まもるっち」はキッズ携帯という形になっているので、中学生の安全という役割は多分賄えるのですが、全てをカバーできるものではないので、中学生が実際に首から下げてまちなかを歩くかということになると、なかなか難しい課題かなという感じはしております。防犯ブザーは全員持っておりますので、総合的に自分の身を自分で守るという指導もあわせて、安全第一の考え方を具現化していく必要があるかなと思っております。

○濱野区長

どうもありがとうございます。

ほかに何か。

はい、どうぞ。

○塚田委員

今の「まもるっち」の話なんですけれども、誤発報が多いということなんです、あまり誤発報が多いとオオカミ少年みたいなので、また大したことはないよねってなって、実際、深刻な事態の対応がおくれるというようなことがあると困るので、誤発報防止の方策みたいなことはあるのでしょうか。

○生活安全担当課長

生活安全担当課長からお答えをさせていただきます。

先ほどご案内がありましたように、以前は触れただけで発報してしまうというようなこともあったようでございます。こういうものを受けまして、機械に仕掛けを施しまして、引っ張った後、何秒かしてから発報するというような仕組みを、まず一つ入れているところでございます。さらには、先ほどもご説明しましたように、各学校に行きまして、実例を交えながら子どもたちにわかりやすく引き方、発報の仕方等を教えているところではございますが、あえて申し上げたいのは、それで子どもたちにちゅうちょしてもらうのは困ると。我々は、誤発報がいくらあっても一生懸命対応してまいりますので、それよりも、怖いと思ったら「まもるっち」を引くんだよ、引く勇気を持つんだよということを、子どもたちに、今、一生懸命教えるようにしているところでございまして、もちろん誤発報が減れば大変いいのですが、決して我々としては気を抜かないで、いざというときには瞬発的に対応できるように一生懸命努めておりますので、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

○塚田委員

はい、わかりました。

○濱野区長

ほかにご意見、ご要望、あるいはご質問等ありましたら、お願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

○中島教育長

一番最後に書いてあるスクールサポーターの方なんですけれども、各警察署に所属していて、OBの方が多いようなんですが、学校を回ってくださっていろいろなアドバイスや、もちろんパトロールもしていただいています。今年度に入ってから、事件や事故を受けますと、かなりの頻度で学校にも来ていただいています。学校ではさまざまな不審者訓練をやるときにもかかわっていただいている、非常に助かっているという話を聞くことがあります。なかなかオープンに、こういう人がいるという情報は伝わりにくいかもしれませんが、

学校にとってはとても安心できる存在の方々なんですね。

○濱野区長

ありがとうございました。  
もしご意見等がありましたら。  
はい、どうぞお願いします。

○富尾委員

いろいろな支援ですとか、見守りですとかということはもちろんなんですけれども、子供がみずから自分の身を守るといような、もちろん「まもるっち」を引くといようなのもそうなんですけど、まず逃げるとか基本的な、こういった機械を使わない、人がいなくても自分で自分の身を守れるといような指導も引き続きお願いしたいなといふふうに思います。

○濱野区長

機械に頼るのではなくて、とにかく自分の体を使って対応するといことも大事だと思うんですね。ワッと走って逃げるとか、そういう瞬発力も大事だと思う。もちろん機械も使って、有効に活用してといことも大事だと思います。  
ほかに、何か。  
はい、どうぞ。

○菅谷教育長職務代理者

もう1点だけ。スクールサポーターの方の、ほかではなかなか出ない話なんですけど、5月に、カリタス学園の子供がバスを待っているところで大変な事件がございました。品川区内に1校だけ、小野学園小学校がございます。私の家のすぐそこです。あそこの1年生、2年生の子は、大井町の駅からバスで来る、結構いるんですよ。駅前が集まってきていますけど、あの事件が起きてから大井警察署と連携しています。スクールサポーターが必ず毎朝ついている。学校の先生もです。そういうことにしないと、やっぱり危ないんですよ。何かあってはいけないと。それが9月になってもまだ継続している。

小学校で、バスで通学といのは区内では少ないんですよ。その一つが小野学園で、小野学園の小学生の子の3分の2ぐらいは品川区内の子供ですから、近くから通っている子が多いんですね。少しでも安全にと。人数は少なくとも子供の命ですから、よく頑張っていますよ。こういう、人がよく動いていただいて、やってみようといことが大事だと思います。以上です。

○濱野区長

ありがとうございました。  
ほかに、何かありますでしょうか。よろしいですか。  
それでは、総合教育会議、そろそろ閉じたいと思いますが、今後ともどうぞ

品川区の教育のために、ご助力をいただけますようお願い申し上げます。今日は、どうもありがとうございました。

— 了 —